

## 現在の大綱と第3次大綱の比較

現在の行財政改革大綱の構成（平成26年度～令和5年度）	第3次行財政改革大綱の構成（令和6年度～令和15年度）																
<p><b>1. 行財政改革推進にあたっての基本的な考え方</b></p> <p><b>(1) 取組の基本方針</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○数値化・可視化に努めた積極的な情報公開</li> <li>○数値目標や峻別すべき基準を設定した聖域なき行財政改革</li> <li>○丁寧な説明をしつつ、決断力とスピード感を持った行財政改革の実施</li> </ul> <p><b>(2) 取組の目標設定</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○財政計画を基本とした取組を推進</li> </ul> <p><b>【参考】大綱策定時の財政計画（平成24年度策定）の策定方針</b></p> <table border="1"> <tr> <td>歳出規模の抑制</td> <td>650億円～700億円程度</td> </tr> <tr> <td>市債残高の削減</td> <td>800億円程度</td> </tr> <tr> <td>実質公債費比率の目標</td> <td>18%未満</td> </tr> <tr> <td>確保すべき基金残高</td> <td>最低限20億円</td> </tr> </table> <p>第1期実施計画（平成26年度～平成30年度）における目標値</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・財政計画（平成24年度策定）における行財政改革の取組期間中の収支不足額を目標値として設定</li> <li>⇒ 財政効果の目標額 6.6億円</li> </ul> <p>第2期実施計画（令和元年度～令和5年度）における目標値</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・財政計画（平成30年度策定）における行財政改革の取組期間中の収支不足額を目標値として設定</li> <li>⇒ 財政効果の目標額 1.7億円</li> <li>※第2期計画全体の目標額は、上記1.7億円に第1期計画から継続する効果額2.6億円を加えた4.3億円と設定</li> </ul>	歳出規模の抑制	650億円～700億円程度	市債残高の削減	800億円程度	実質公債費比率の目標	18%未満	確保すべき基金残高	最低限20億円	<p><b>1. 行財政改革推進にあたっての基本的な考え方</b></p> <p><b>(1) 取組の基本方針</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○市民の福祉の向上と持続可能な行政サービスを提供するための行財政改革</li> <li>○真に必要な事務事業の取捨選択を行い、安定的な財政基盤を築くための行財政改革</li> <li>○これまで実施してきた行財政改革の取組を基本としながらも、DXや民間活力を積極的に活用した行財政改革</li> </ul> <p><b>(2) 取組の目標設定</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○財政計画を基本とした取組を推進</li> </ul> <p><b>【参考】大綱策定時の財政計画（令和3年度策定）の策定方針</b></p> <table border="1"> <tr> <td>歳出規模の抑制</td> <td>750億円程度の水準</td> </tr> <tr> <td>市債残高の縮減</td> <td>740億円程度に縮減</td> </tr> <tr> <td>健全化指標の改善</td> <td>実質公債費比率は12%未満 将来負担比率は100%未満</td> </tr> <tr> <td>基金残高の確保</td> <td>最低でも20億円以上を確保</td> </tr> </table> <p>前期実施計画（令和6年度～令和10年度）における目標値</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・財政計画（令和3年度策定）における行財政改革の取組期間中の収支不足額を目標値として設定</li> <li>⇒ 財政効果の目標額 8億円をベースに目標設定</li> <li>※前期実施計画の計画期間中（令和6年度～10年度）の収支不足額は7億5千7百万円</li> </ul>	歳出規模の抑制	750億円程度の水準	市債残高の縮減	740億円程度に縮減	健全化指標の改善	実質公債費比率は12%未満 将来負担比率は100%未満	基金残高の確保	最低でも20億円以上を確保
歳出規模の抑制	650億円～700億円程度																
市債残高の削減	800億円程度																
実質公債費比率の目標	18%未満																
確保すべき基金残高	最低限20億円																
歳出規模の抑制	750億円程度の水準																
市債残高の縮減	740億円程度に縮減																
健全化指標の改善	実質公債費比率は12%未満 将来負担比率は100%未満																
基金残高の確保	最低でも20億円以上を確保																
	<p><b>(3) 市民の理解と協力</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・行財政改革を実施するにあたり、市民生活や地域活動等に影響が及ぶ取組については、市民や地域に丁寧な説明を行い、理解と協力を求める。</li> </ul>																
<p><b>(3) 大綱の期間及び実施計画の期間</b></p> <p>①大綱の期間 平成26年度から概ね10年間</p> <p>②実施計画の期間 第1期実施計画 5年間（平成26年度から平成30年度まで） 第2期実施計画 5年間（令和元年度から令和5年度まで）</p>	<p><b>(4) 大綱の期間及び実施計画の期間</b></p> <p>①大綱の期間 10年間（令和6年度から令和15年度まで）</p> <p>②実施計画の期間 前期基本計画 5年間（令和6年度から令和10年度まで） 後期基本計画 5年間（令和11年度から令和15年度まで）</p>																
<p><b>(4) 実施計画の進行管理</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・行財政改革審議会において毎年検証を実施</li> <li>・取組状況を市議会へ報告するほか、広報紙や市ホームページにおいて公表</li> </ul>	<p><b>(5) 実施計画の進行管理</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・行財政改革審議会において毎年検証を実施</li> <li>・取組状況を市議会へ報告するほか、広報紙や市ホームページにおいて公表</li> </ul>																

現在の行財政改革大綱の構成（平成 26 年度～令和 5 年度）	第 3 次行財政改革大綱の構成（令和 6 年度～令和 15 年度）
<b>2. 個別の方針</b>	<b>2. 個別の取組方針</b>
<b>(1)効率的・効果的な行財政運営</b>	<b>(1)効率的・効果的な行財政運営</b>
<b>①事務事業の適正な推進</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「ものさし（峻別の基準）」の設定</li> <li>・広範、多様化した事務事業の整理・統合・廃止</li> <li>・民間活力を活用した事務事業の実施</li> </ul>	<b>①適正な事務事業の実施</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事務事業の見直し</li> <li>・一定の基準の設定</li> <li>・民間委託等の活用（アウトソーシング）</li> <li>・官民連携した取組の推進</li> </ul>
<b>②補助金・負担金及び扶助費のあり方</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・行政が関与する補助金等のあり方及び交付ルールの適正化</li> <li>・受益者の応分負担の原則</li> <li>・補助対象者の精査</li> <li>・国県補助金の上乗せ助成については廃止の方向で検討（国県方針に沿った取組の実施）</li> </ul>	<b>②補助金・負担金のあり方</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・補助金の目的に沿った成果基準の設定</li> <li>・定期的な見直し期間の設定</li> <li>・補助対象の適正化</li> <li>・適正な受益者負担の設定</li> </ul>
	<b>③DX推進による業務の効率化</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・デジタル技術を活用した窓口の構築や行政手続のオンライン化</li> <li>・AI・RPA等の活用</li> <li>・デジタル技術の導入にあわせた業務改善</li> <li>・セキュリティ対策の徹底</li> </ul>
<b>③外郭団体</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・外郭団体への市の関与のあり方を検討</li> <li>・所有財産等の適正な管理・執行体制の整備</li> </ul>	<b>④外郭団体</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市の関与のあり方を検討</li> </ul>
<b>(2)公共施設のあり方と管理運営</b>	<b>(2)公共施設のあり方と管理運営</b>
<b>①公共施設の今後のあり方</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・存続、統廃合・譲渡を検討・決定するための基準の設定</li> <li>・施設の統廃合等</li> <li>・公共施設の適正配置</li> <li>・スピード感を持った見直しの推進</li> </ul>	<b>①公共施設のあり方</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・出雲市公共施設のあり方指針の着実な実施</li> </ul>
<b>②公共施設の管理運営</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・指定管理者制度運用方針の見直しを含む施設管理のあり方検討</li> <li>・施設の長寿命化計画策定と取組の推進</li> </ul>	<b>②公共施設の利用促進と管理運営</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・施設の利用促進</li> <li>・維持管理費の抑制</li> <li>・施設の長寿命化計画策定と取組の推進</li> </ul>
<b>(3)組織・機構と適正な人員管理</b>	<b>(3)組織体制の充実と人材育成</b>
<b>①時代に即応した組織・機構</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・簡素で効率的・機能的な組織・機構の構築</li> </ul>	<b>①時代の変化に適応する組織・機構</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・機動的かつ効率的な組織・機構の構築</li> </ul>
<b>②適正な人員管理</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・職員数の削減と年齢バランスの是正</li> <li>・総人件費の抑制</li> <li>・職員の資質向上に向けた取組</li> </ul>	<b>②人材育成と働きやすい職場環境</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・職員の資質向上に資する研修参加と市民ニーズの把握</li> <li>・人事評価制度の有効活用</li> <li>・知識とスキルを活用した働き方の推進</li> <li>・ワークライフバランスの推進</li> </ul>
<b>(4)財源の確保と債務の抑制</b>	<b>(4)財源の確保と債務の抑制</b>
<b>①使用料・手数料の見直し</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・応分な受益者負担</li> <li>・施設等の適正な使用料の設定</li> <li>・他市との均衡ある手数料の設定</li> </ul>	<b>①使用料・手数料の見直し</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・応分な受益者負担</li> <li>・処理コストや近隣自治体の状況を勘案した使用料・手数料の設定</li> <li>・施設使用に係る適正な使用料の設定</li> </ul>
<b>②財源の確保</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・収納対策の強化</li> <li>・市の保有する資産の処分及び利活用</li> <li>・新たな財源の確保</li> </ul>	<b>②財源の確保</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・収納対策の強化</li> <li>・市の保有する資産の処分及び利活用</li> <li>・新たな財源の確保</li> </ul>
<b>③起債の抑制</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・公共事業費を適正規模に縮減し、市債の新規発行額を抑制</li> <li>・債務負担行為分を含めた繰上償還の実施</li> </ul>	<b>③起債の抑制</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市債の新規発行額を抑制</li> <li>・繰上償還の実施</li> </ul>